

世界の国を知る 🌐 世界の国から学ぶ

わたしたちの地球と未来

🇬🇵 ガボン共和国 🇬🇵




【表紙の写真】

(右上)

首都リーブルヴィルを走る道路

(左下)

ガボンの子どもたち

 落合亮仁

Contents

01 こんな想いを込めました!

02 こんな教材です!

03 こんな風に使えます!

05 なぜガボン共和国?

第1章 ガボンってどんな国?

= 緑豊かな自然にあふれた国 =

07 クイズ100人に聞きました!

09 ガボンなんでもウソ?ホント?

11 ガボンの学校ウソ?ホント?

13 アフリカの食卓 ~キャッサバは地球を救う?~

15 ちょっとブレイク

第2章 へえ~! ガボンと日本

17 ガボンと日本のへえ~ホント?

19 あなたはまちの宣伝部長! みんなにまちをPR!

21 ちょっとブレイク

第3章 一緒に考えよう! こんな課題

23 アフリカが抱える課題

25 ゴリラを救おう! プロジェクト

27 ちょっとブレイク

第4章 そして未来へ

29 もしも外国とのつながりがなくなったら

30 未来の地球

参考資料

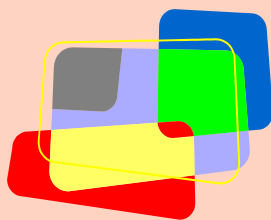
33 目で見るガボン

35 ガボン地図

37 参考文献・データ等の出典

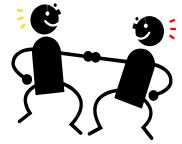
37 ご協力いただいた方

37 執筆・教材作成チームメンバー



こんな想いを込めました！

愛知万博で体験した国際交流の楽しさを広げていきたい！つなげていきたい！
そんな想いが本書作成のきっかけでした。



国際交流は楽しい！

『世界大交流』をうたった2005年愛知万博。120カ国の文化や生活に触れたり、いろいろな国の人たちと話をしたりすることは、とても楽しい経験でした。「国際交流」は決して難しいことではありません。自分の視野を広げ、他者を尊重する力を育むことにもつながり、そうした力は多文化共生社会を実現するためにも欠かせません。そんな国際交流の楽しさ、大切さを愛知から発信していきたいと考えました。

人の顔が見える教材をつくりたい！

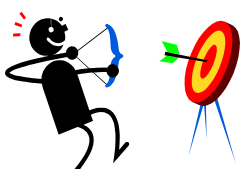
「日本ってこんな国」「日本人ってこんな人」って決めつけられて違和感を感じた経験はないでしょうか？ 国全体の概要を知ることもちろん大切ですが、何となく持っている固定概念をもしかしたら裏切るような、「へえ～、こんな一面もあるんだ」と意外に思えるような、そんな教材をつくりたいと考えました。そうすることによって、「わたしたちが世界のことをいかに知らないか」ということや「普段見聞きしている情報はほんの一面にすぎない」ということに気づいてもらうとともに、そこに住んでいる人々を身近に感じてもらえたらいいなと思います。

世界の国から学ぶ！

どんな国もいいところ、悪いところ、いろいろな面を持っています。何が幸せなのか、「豊か」の基準は何なのか、といった価値観もさまざまです。例えば、途上国だから「かわいそうな国」ではありませんし、紛争があるから「こわい国」でもありません。日本にもたくさん問題があります。様々な国の、特にすばらしいところを知ることによって、対等な関係をつくるとともに、自分たちの地域や生活をふりかえることができると考えました。国にも人にも文化にも優劣はないことを踏まえて、お互いに学び合える関係ができればいいなと思います。

未来を創るのはわたしたち！

地球はさまざまな課題を抱えています。環境や人権や平和など、日本も無関係ではありません。地球に住む一人ひとりがそれらの課題に取り組まなければ、よりよい未来を創ることはできないのです。そしてよりよい未来を創るためには、今、地球で起きていることは何なのかを知り、それが自分とつながっていることに気づくことが大切だと考えました。本書に掲載されていることは、地球で起きていることのほんの一部ですが、それらを通して感じたこと、気づいたことが未来につながっていくといいなと思います。



こんな教材です！

次のようなことを考えてつくりました。

ファシリテーター・先生用の教材です

内容については、小学生高学年以上を対象としていますが、本書自体は、ファシリテーター(参加型プログラムの進行役)や先生に使っていただくための教材となっています。ことば遣いなど、対象に合わせて直してください。必要に応じてコピーし、配布していただいても結構です。

参加型で使うことができる教材です

情報・知識を聞くだけではなく、考えたり、作業をしたり、話し合ったりすることによって楽しく学べるとともに、その中で何かを感じたり、気づいたりしてもらえようようなプログラムにしました。基本的には4~6人のグループに分かれて行うプログラムになっています。必ずしも正解があるものばかりではありません。参加型のプロセスを大切にいただければと思います。

きっかけづくりの教材です

本書で紹介したのは、ガボンのほんの一面です。本書だけでガボンのすべてがわかるわけではありません。ガボンに親しみを感じ、関心を持ってもらうと同時に、自分たちの地域をふりかえり、地球的課題を考えるきっかけとして活用してください。

使い方は自由です


とはいうものの、使い方は自由です。もちろん、最初から順番にやる必要はありません。対象に応じてプログラムの進め方を変えたり、時間的な条件によって短縮したりするなど調整することもできます。P.3~4に掲載した使い方の例を参考に、どんどんアレンジして使ってください。巻末に参考資料を掲載していますので、最新のデータが必要なときや、もっと深めたいときは、活用してください。












カラーデータ・写真はダウンロードできます

カラーデータ・写真については、(財)愛知県国際交流協会のウェブサイトからダウンロードできます。ただし、著作権は出典元または(財)愛知県国際交流協会に帰属します。学校関係や国際交流団体等が教育の目的で非営利に使う場合に限り、活用していただけます。

本書の構成とマークの見方

基本的に、1項目2~4ページで掲載しており、実際に使っていただくプログラムと、それに関する説明とで構成されています。タイトルの横にそれぞれのプログラムの「ねらい」が掲載されていますので、参考にしてください。なお、本書で使っているマークの意味は次の通りです。



	参加型のプログラムです。 必要に応じてコピーし、配布してください。		プログラムで模造紙を使います。
	プログラムに関する説明です。 ファシリテーター・先生用です。		プログラムでマジックを使います。
	プログラムのねらいです。		プログラムで付箋を使います。
	プログラムに使う資料です。 必要に応じてコピーし配布してください。		プログラムでA4用紙を使います。 裏紙等を活用してください。
	コピーし、カード等に切り離して 使ってください。		データ等の出典です。
			写真の撮影者です。

こんな風に使えます！

例えば、こんな使い方はいかがですか？

第1章 ガボンってどんな国？ = 多様な人々、多様な伝統文化、多様な生物に出遭える国 =

● P.7 クイズ100人に聞きました！

ガボンを学ぶ学習の導入として使えます。正しい答えはなかなか出てこないと思いますが、正しい答えを求めることがねらいではありません。わたしたちは、1つの国を国全体のデータや象徴的なものだけで捉えがちです。それも大事なことです。それ以外のことは意外と知らないということに気づいて、「ガボンっていったいどんな国だろう」と興味を持ってもらい、次の作業につなげるとよいでしょう。

①の地図は、日本が中心にありません。普段日本で使われている世界地図は、日本が中心になっているものが多いのですが、「極東の国」といわれるように、ほかの国では日本が右端になっている地図が多く使われています。これをきっかけに、世界で使われている様々な地図を調べてみてもおもしろいでしょう。

● P.9 ガボンなんでもウソ？ホント？ / P.11 ガボンの学校ウソ？ホント？

ガボンについてはほとんど知らないというのが普通だと思います。まずはクイズ形式で親しみを持つことから始めるといいでしょう。特に、子どもたちの場合、自分と同じ年頃の子どもたちがどんな生活をしているかについて知ることは、とても親近感を感じると思います。カードをバラバラに切り離してグループで「ウソ」と「ホント」に分ける作業をしますが、場合によっては、裏紙などで「ウソ」カードと「ホント」カードを作り、個人またはグループで掲げてもらっても楽しいかもしれません。ただ、このアクティビティは、どちらかという導入として使い、そのあと発展させたほうがいいかもしれません。例えば調べ学習などと組み合わせ、参加者にさらにクイズを作ってもらい、お互いにクイズを出し合うのもおもしろいでしょう。

● P.13 アフリカの食卓～キャッサバは地球を救う？～

ガボンだけでなく、アフリカ全体の食卓について触れているプログラムなので、いろいろなところで使えると思います。特に⑧から、様々な地球的課題について広げていくこともできるでしょう。例えば南アフリカ、セネガルの教材でも地球的課題やピーナッツに関する課題を扱っているプログラムが掲載されているので、組み合わせ使ってもおもしろいかもしれません。

第2章 へえ～！ガボンと日本

● P.17 ガボンと日本のへえ～ホント？

まったく関係ないだろうと思っている国でも、必ずどこかでつながっていたりします。そこに気づいてもらいたいプログラムです。特に、日本はアフリカの国々にも様々な支援をしていますので、まずはつながりに気づいてから、そうしたテーマにつなげていってもいいと思います。

● P.19 あなたはまちの宣伝部長！みんなにまちをPR!

ガボンのことを知らないと思っていたら、実は自分の地域のことよく知らなかった...ということに気づくかもしれないプログラムです。ガボンのことを知ると同時に、地域のことを知り、誇りに思ってもらえるような...そんな時間にしてもらえたらと思います。教材にはガボン大使館のウェブサイトが紹介されていますが、「宣伝部長としてウェブサイトをつくるとしたら、どんな風にPRする？」とみんなで地域のウェブサイトをつくってみてもおもしろいかもしれませんね。つくりあげたものを、地域の国際交流協会などと連携して実際に掲載できたら、子どもたちにとって、とてもうれしいことかもしれません。

P.23 アフリカが抱える課題

「アフリカは貧しい」「かわいそう」とならないように、プログラムを進めてください。事実は事実として客観的に知り、国際協力とは...というところにつなげられるといいと思います。そのためには、アフリカのすばらしいところを紹介したプログラムと組み合わせたり、国際協力の関係者の話とつなげたりするなど、課題だけで終わらないようにプログラムを組み立てられたらいいと思います。

P.25 ゴリラを救おう！プロジェクト

環境に関しては、やり方によってはとても難しくなってしまうので、対象に合わせて楽しく、でも自分たちの問題としてきちんと考えられるようにプログラムを進めてください。答えに正解はなく、いろいろなアイデアを出すことが大切だと思います。その上で、自分自身の生活をふりかえることも重要なので、④に少し時間をかけるといいかもしれません。この教材では、日本の状況についてはあまり触れていませんが、ウェブサイトなどにたくさん資料がありますので、日本の状況や取り組みなどについての調べ学習と組み合わせてもいいかもしれません。

第4章 そして未来へ

P.29 もしも外国とのつながりがなくなったら / P.30 未来の地球

導入としてもまとめとしても使えるプログラムです。P.31の成果物も参考にしてください。

その他いろいろ

国際交流は楽しいものです。プログラムも楽しい雰囲気が進められるよう参加者に合わせた進め方にアレンジしてください。

プログラムは単独でも組み合わせても使えます。参加型のプログラムと情報提供の時間をうまく組み合わせましょう。例えば、P.9の「ガボンなんでもウソ？ ホント？」をした後に留学生や青年海外協力隊OB / OGなどのお話を伺うと、より楽しくわかりやすいと思います。

4～6人のグループで行うとアイデアが出やすく、場も盛り上がります。ただ、流れや状況に応じて、個人作業や全員での作業を交えながらメリハリをつけるといいでしょう。

各プログラムの最後に「気づいたこと、わかったこと、感じたこと」などを聞くふりかえりの時間をとると、より理解が深まり、記憶に残りやすいでしょう。

P.37に参考文献、出典などを掲載しています。特にデータについては、最新のものを使っていた方がいいと思います。

ガボン以外の国の教材も作成しています（P.5）。同じテーマを扱っている国もありますので、組み合わせるとおもしろいかもしれません。例えば、ウソホントクイズや学校の様子などはいろいろな国のものを合わせて比較すると楽しいですネ！

慣れてきたら、グループごとに国を決めて子どもたちがファシリテーター役でプログラムを進めるのもおもしろいかもしれません。

なぜガボン共和国？

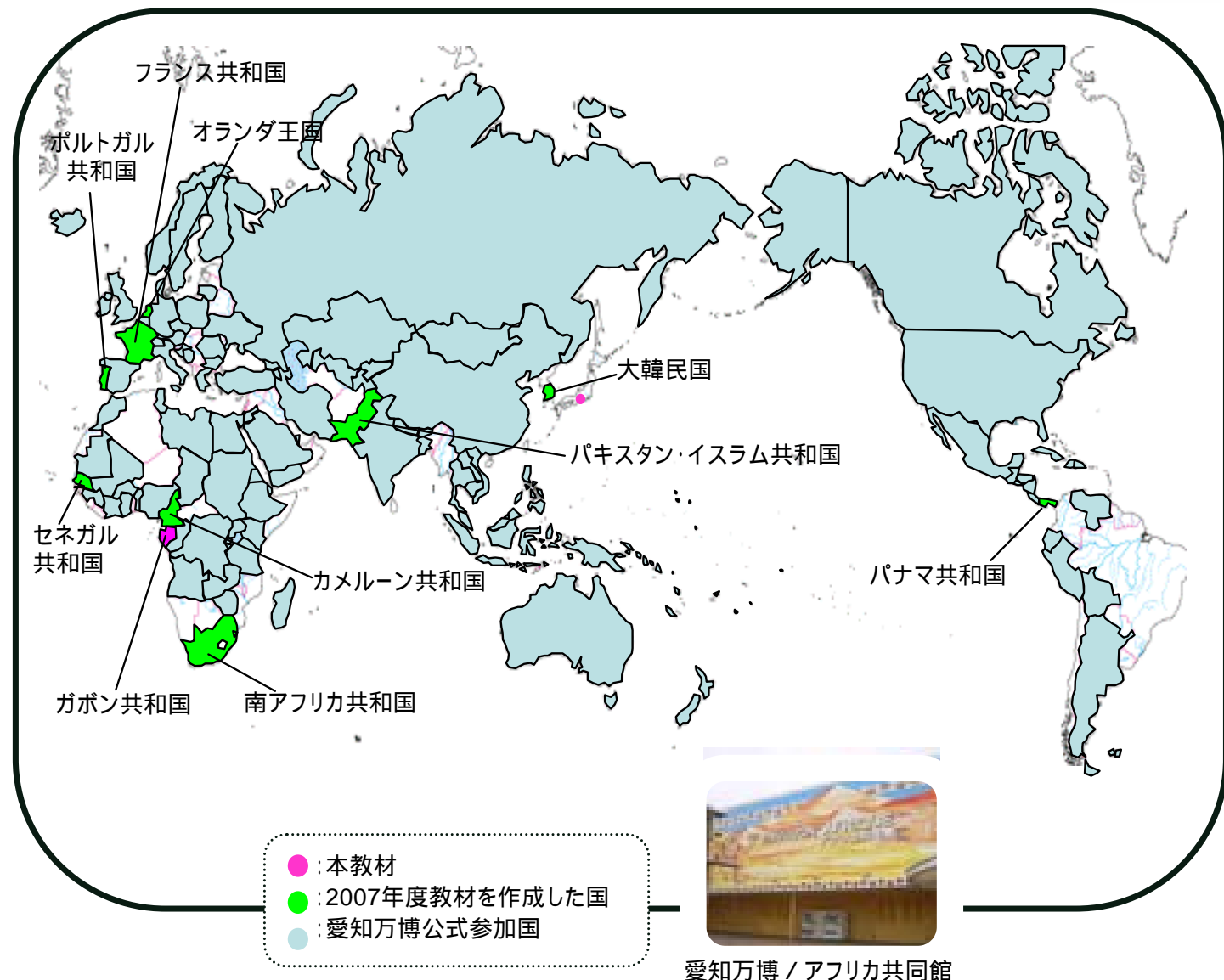
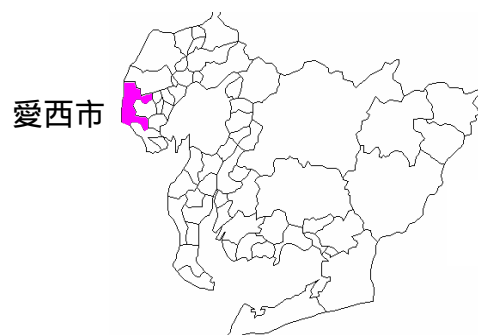
始まりは、2005年愛知万博「一市町村一国フレンドシップ事業」

2005年に開催された愛知万博の会期中愛知県内の市町村は、公式参加国120カ国(日本を除く)のホームシティ・ホームタウンとして、地域ぐるみのホスピタリティあふれる受入を行いました。この取り組みを「一市町村一国フレンドシップ事業」と言います。このフレンドシップ事業では次の5つのことをねらいとしました。

- 世界各地から訪れる人々に日本や日本人を理解してもらう
- 迎え入れる地域の人々に、交流を通じて、世界には多様な価値や文化があることを知ってもらう
- 万博会場内だけではなく、地域でもてなすことで、万博を相互交流を深めるための大きな舞台とする
- 地域文化を世界に発信することにより、各地域が自らの文化を再発見し、地域のあり方や発展の方向性について学ぶ機会とする
- 地域に根ざした「人」と「人」との交流を万博終了後も引き継ぎ、世界の人々をつなぐ架け橋としてさらに発展させる

この「一市町村一国フレンドシップ事業」をさらに広げ、つなげていこうと作成したのがこの教材です。

そして、ガボン共和国のホームシティは、愛西市でした。

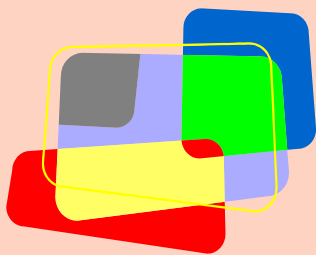




第1章

ガボンってどんな国？

= 緑豊かな自然にあふれた国 =



クイズ100人に聞きました！

① ところで、みなさんはガボンのこと、どのくらい知っていますか？

① アフリカで知っている国をできるだけたくさん書いてください。

② 下の地図でガボン共和国はどこだと思いますか？ この辺だと思うところに印をつけてください。



③ ガボンといえば何を思い出しますか？ 人・物・イメージなど何でも思いつくもの、知っている人など、できるだけたくさん挙げてください。

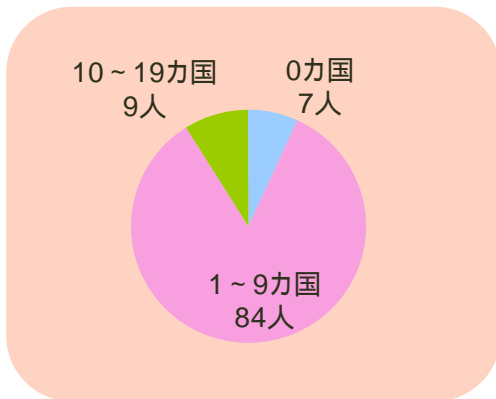


同じ質問を愛西市の中学生100人に聞いた結果は次のようになりました。



まずは「知らないこと」に気づくことから始めましょう。

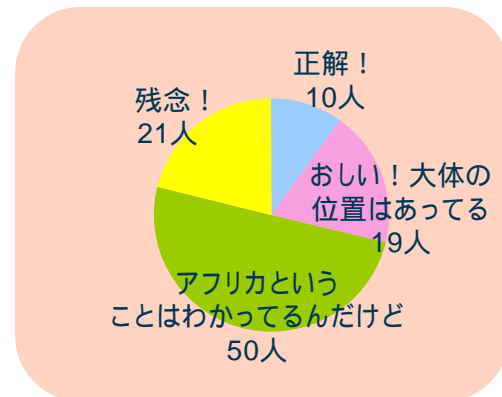
1. アフリカで知っている国は？



1~9カ国の国名を挙げた人数が一番多く、84人でした。一番たくさんの国名を答えられた人は15カ国挙げてくれました。一番答えが多かったのは、エジプトでした。次いで万博のとき愛西市のフレンドシップパートナー国だった南アフリカ、ガボンが2番め、3番めでした。愛西市は他にチャドやパナマともフレンドシップを結んでいました。チャドもアフリカにある国です。他にたくさん挙がっていたのは、ガーナ、ケニア、ナイジェリア、マダガスカル、エチオピア、リビアなどでした。

アフリカの53カ国のうち愛西市の中学生100人で挙げるのでできた国は31カ国でした。

2. ガボンはどこ？



10%の人が正確にガボンがどこにあるか答えてくれました。アフリカにあることを知っている人は全体の半分いました。国名はわかっても正確に位置まで答えるのは難しいですね。

3. ガボンと言えば？ ガボンのイメージは？

多かったのは、「黒人」(36人)、「国歌」(27人)。国歌は学校の授業で歌ったということで、歌詞をかいてくれた人もいました。

黒人(36人) / 国歌(27人) / 万博(22人) / 「暑い」(14人) / 愛西市(八開村)(4人) / 副大統領(3人) / ダンス(3人) / 自然(2人) / ジングル(2人) / 明るい(2人) / やさしい(2人) / 発展途上国(2人) / 歌(2人) / 楽器(タイコなど)(2人) / 国旗(2人) / 派手な衣装(2人) / 民族(2人) / 土 / 木が多い / 砂カバ / 赤道 / パナナ / タロイモ / あたたかい / アマゾン川 / カカオ / 森 / 蚊 / 湿っぽい / 目がいい / 笑顔 / 大統領の奥さん / 背が高い / ポビー / のんびり / 王女 / 麻生さん / 舛添大臣 / 貧しい / 学校がない / 小さい / アフリカでは高所得 / テレビなし / ユニセフ / 電気・水道なし / 石油 / フランス語 / 土器 / アフリカ / 宗教 / イスラエル / オカザエル / 共和国 / うちわ

ガボンなんでもウソ？ホント？

① 次のカードは、ガボンについて書かれたものですが、ウソ？ホント？

① ガボンの首都
リーブルヴィルは、フ
ランス語で「自由の
町」の意味。



② ガボンでは、カカ
オの栽培がさかんで、
アフリカにおいてガー
ナに次いで第2位の生
産量を誇っています。



③ ガボンから輸出
される鉱産物は少
量の金、ダイヤモンド
などの宝石類にか
ぎられています。



④ この国の地に最
も古くから住んでい
たのはピグミーで、
彼らは優秀な森のハ
ンターとして知られ
ています。



⑤ ガボンは、産油国
ですが、人口が多い
ため、国民所得は低
く、貧困に苦しんで
います。



⑥ ガボンのクリス
マスは祝日になって
いますが、そのかわ
りに1月1日の元日
は祝日ではありません。



⑦ 「ガボン」という
国名は、入り江の形に
ちなんでつけられた名
前で、ポルトガル語で
「マント」の意味です。



⑧ ガボンでは、お面
は装飾品ではなく、社
会の姿を具体化する
ものであると考えられ
ています。



⑨ ガボンの国旗は、
緑が森、黄色が鉱産物
の金、青が海を表して
います。



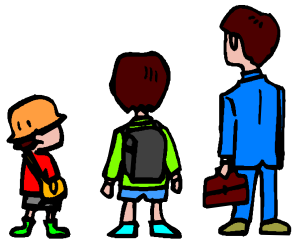


- 1 **ホント** リーブルヴィルは、19世紀半ばに、フランスが解放奴隷の町として建設した都市です。1848年、解放奴隷たちの自由への願いをこめ、フランス語で「自由の町」を意味する「リーブルヴィル」という名前がつけられました。
- 2 **×ウソ** ガボンの人口のおよそ半分が焼畑耕作を行い、キャッサバやタロイモといった自給作物を栽培しています。内陸部の高原地域では、カカオやコーヒーが栽培されていますが、生産量は少なく、輸出量の多いカカオでさえ、ガーナの生産量の100分の1を占めるにすぎません。
- 3 **×ウソ** かつて、ガボンから輸出される鉱産物は、少量の金、ダイヤモンドなどの宝石類にかぎられていましたが、今日ではこれらの宝石類にかわって石油、ウラニウム、マンガンなどの鉱産物の開発がすすめられています。なかでも石油は、サブ・サハラアフリカ(サハラ砂漠以南のアフリカ P.13地図)では、ナイジェリア、アンゴラ、赤道ギニア等に次ぐ産油国であるなど、ガボンは資源に恵まれた国なのです。
- 4 **ホント** 最も古くから住んでいたピグミーは、熱帯雨林に住む低身長の人々ですが、弓矢を巧みに使い、狩をしながら暮らしています。
- 5 **×ウソ** ガボンは産油国であり、人口の少なさもあって国民所得はアフリカではかなり高い部類に属していません。
- 6 **×ウソ** ガボンでも元日は祝日です。日本では、12月25日のクリスマスは祝日ではありませんが、ガボンでは祝日となっています。ガボンの国民の半分以上がキリスト教で、クリスマスのほかに、8月15日の聖母被昇天の日や、11月1日の諸聖人の日なども祝日になっています。
- 7 **ホント** ヨーロッパ人として最初にガボンに渡来したのはポルトガル人で、入り江の形が船員用のマントに似ていたことから「ガボン」(マント)と名づけられたそうです。
- 8 **ホント** ガボンのお面は2種類に分けられます。威嚇するお面と、人を惹きつけるお面です。それは、無秩序な力と秩序正しい力、あるいは、老人と若者、醜さと美しさが顔をつき合わせているような社会の姿を、そのお面自体が具体化しているのです。
- 9 **×ウソ** 緑は森林、黄色は太陽と赤道、青は海を表しています。ガボンはノーベル平和賞を受賞したシュバイツァー博士の長年にわたる医療活動の地として知られていますが、国旗のデザインも博士の著書『水と原生林のはざま』からヒントを得たといわれています。

ガボンの学校ウソ？ホント？

① 次のカードは、ガボンの学校について書かれているものですが、ウソ？ホント？

① ガボンの学校制度は、6・4・3・4制で、旧宗主国フランスのものとほぼ同様です。



② ガボンの義務教育は小学校1年生から中学4年生までですが、授業料が高いことから社会階級の高い人達のみ学校に通うことができます。



③ ガボンの小学校では、フランスとの協定により、派遣されるフランス人教師からのみ教育を受けることができます。



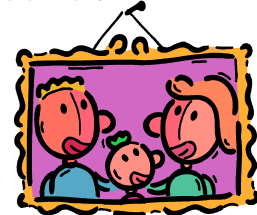
④ ガボンの小学校は、月曜日から金曜日までの週5日制です。



⑤ 中学校も制服はなく、みんな私服で通学します。



⑥ ガボンでは、家庭でのしつけに関することは家庭に任せていて、何か問題があっても教師は関与しません。



⑦ ガボンの学校は、夏休みなどの長期休暇のほかに、キリスト教やイスラム教の祭日も休みとなります。



⑧ ガボンの学校では、遅刻、無断欠席に対して非常に厳しく、場合によっては退学になることがあります。



⑨ ガボンの学校の給食は旧宗主国フランスと同じように、前菜、メインディッシュ、デザートとコースで出てきます。



宗主国：従属国や植民地に対して宗主権をもつ国家。宗主権とは、他国の内政・外交などを支配・管理する機能。植民地などが独立する過程で、本国がその植民地に対してもつことが多い。



P.11のこたえと解説です。



ガボンの子どもたちはどんな学校生活をしているのかを知ること、より身近に感じよう

- 1 **ホント** ガボンの教育制度は、フランスの教育制度とほぼ同じです。6年間の初等教育(小学校)の後、中学4年間・高校3年間(リセ)と進んだ後、大学進学希望者はバカロレア(大学入学資格)を取得します。
- 2 **×ウソ** ガボンの義務教育は、初等教育6年(6歳～12歳・小学校1年生～6年生)と前期中等教育(13歳～16歳・中学校1年生～4年生)ですが、授業料は無料で就学率は高くなっています。特に、11歳以上15歳以下の就学率は都市部より村落部の方が高くなっています。なお、その年の6月30日までに満6歳になる子どもは、前年の9月に入学します。
- 3 **×ウソ** ガボンの小学校では、フランスとの協定により、ガボン人、フランス人、その他外国人子女がクラスに混在し、派遣されたフランス人教師、ガボン人教師によって教育を受けます。授業はフランス語で行われます。
- 4 **×ウソ** ガボンの中学校は週5日制ですが、小学校は、月・火・木・金の週4日制です。
- 5 **×ウソ** 小学校の服装は自由(ただし、華美すぎないこと)ですが、中学生以上は制服で通学します。
- 6 **ホント** ガボンでは、学校と家庭、教師と親の関係がとてもドライです。学校内における事故、障害などに対しては、学校に責任があると考えますが、一歩校外へ出れば、何が起きても家庭の責任と考えます。子どもに、家庭のしつけに起因する問題がある場合は、父母へ連絡の上一応注意喚起はするもののそれ以上の指導はありません。各個人はそれぞれの個性を持っており、それを1教師の立場で否定したり肯定したりはしないのです。また、小学生の場合、通学は必ず親が同伴することになっています。
- 7 **ホント** 一般に長期休暇としては、7月初旬～9月中旬までの夏休み、12月末から1週間にわたるクリスマス休暇があります。ちなみに、1学期は9月～12月、2学期は1月～3月、3学期は4月～6月です。
- 8 **ホント** ただし、教師側のストライキが行われることもあり、教師の授業欠席やそれによるカリキュラムの遅れが問題となっています。
- 9 **×ウソ** 給食はありません。昼食は各自自宅です。

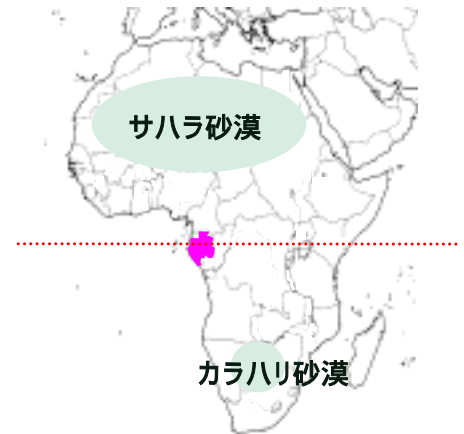


アフリカの食卓 ~ キャッサバは地球を救う? ~

① アフリカの人たちは毎日、どんなものを食べているのでしょうか? 日本と似てるかな

1 アフリカは、サハラ砂漠を境にして、北と南では文化や生活や食事などが大きく異なります。サハラ砂漠より南でおもに主食として用いられているのはどれでしょう?

A. トウモロコシ B. キャッサバ C. ヤムイモ D. 米 E. バナナ



2 サハラ砂漠より北の国々の中には、豚肉を食べられない国があります。どうしてでしょう?

A. 豚肉の保存が難しいから
B. 豚肉アレルギーの人が多いため
C. 宗教上の理由から
D. 豚肉の輸入が禁止されているから

3 では、サハラ砂漠より南の国でよく食べられる肉は何でしょう?
(ヒント: アフリカの南部にはカラハリ砂漠などもあり、多くの地域が乾燥した草原地帯です)

A. 豚 B. 鶏 C. 牛 D. ワニ

4 アフリカ西部では、スープや煮込み料理が多く見られます。料理には、私たちにもなじみのある豆からとれるオイルを使うことが多いのですが、それは何の豆だと思いますか?

A. 大豆 B. ピーナッツ C. カシューナッツ D.アーモンド

5 アフリカではキャッサバと言われるイモをよく食べますが、キャッサバの原産地はどこでしょう?

A. タイ B. インド C. フィリピン D. ブラジル

6 キャッサバは、わたしたちも食べるデザート原材料です。さて、どのデザートでしょう?

A. ナタデココ B. タピオカ C. プリン D. アイスクリーム

7 キャッサバの特徴を説明した次の文章の中で1つ間違っているものがあります。それはどれでしょう?

A. 栽培がとても簡単。茎を地中にさすだけで根が生え、そのまま大きくなる
B. やせた土地にも干ばつにも強い
C. 収穫しなくても4年ぐらい地中に残しておける
D. 有毒な酵素が含まれている
E. 収穫後も長い間保存ができる

8 キャッサバは今、ある地球的な課題を解決する食料としての期待が高まっています。どんな課題を解決してくれるのでしょうか? (ヒント: 答えは1つとは限りません)

A. 地球温暖化 B. 食糧問題 C. 野生生物の絶滅 D. 砂漠化



1 全部正解

サハラ砂漠の南のサバナを中心とした地域では、米のほかトウモロコシをはじめとする様々な雑穀が、また熱帯雨林地域では、バナナ、キャッサバ、ヤムイモが主食とされています。これらの食材をやわらかく調理するのです。たとえば、雑穀類は細かくひいて粉にして蒸したり、キャッサバやバナナはつぶしてお団子にして食べたりします。



ヤムイモ

Wikipedia

2 C. 宗教上の理由から

北アフリカは、対岸のヨーロッパと東側のアラビア半島の影響を受けてきた地域です。7世紀ごろからイスラム教徒のアラビア人が住み始めた影響で、多くの人々がイスラム教を信仰しています。料理もアラビア人がもたらした香辛料を多く使います。イスラム教の戒律にのっとり、この地域の多くの人々は、豚肉を食べることができません。食事の中心は、パンや米などです。

3 C. 牛

アフリカ南部には、広大なカラハリ砂漠などがあり、周辺地域は南アフリカ共和国の南部をのぞいて大部分が乾燥した草原地帯となっており、牛を主とした牧畜と農業が行われています。主食は、白トウモロコシの粉を練った「サザ」と呼ばれる食べ物（ザンビア・ジンバブエでは「サザ」「シマ」、南アフリカでは「パップ」などと呼ばれています）で、肉や野菜のシチューをかけていただきます。

4 B. ピーナッツ

アフリカ西部の料理には、ピーナッツオイルをはじめ、アブラヤシからとれるパーム油がよく使われます。

5 D. ブラジル

キャッサバはマニオク（マンジョカ）とも呼ばれ、ブラジル原産です。ブラジルを植民地として支配したポルトガル人が栽培が簡単なキャッサバを奴隷貿易用の食料として、アフリカを中心に世界に広めたのです。



キャッサバ(イモ)

6 B. タピオカ

『もちもち』『ぷにぷに』とした独特の食感のタピオカの原材料となっているのが、キャッサバの澱粉です。

7 「E. 収穫後も長い間保存ができる」がまちがい

キャッサバは、簡単に栽培できる作物ですが、食べるまでの準備には手間がかかります。キャッサバには、ある種の有毒な化合物をシアン化水素化合物に変える酵素が含まれており、そのまま食べると命を失ってしまう危険があります。そのため西アフリカでは、キャッサバの根を摩り下ろし、2・3日おいて発酵させます。発酵したキャッサバを熱するとシアン化合物が抜けていくのです。



キャッサバ(葉)

8 A. 地球温暖化 と B. 食糧問題

Wikipedia

地球温暖化の原因となっている二酸化炭素などの温室効果ガス排出削減に向け、化石燃料に代わる循環型エネルギー「バイオ燃料」(P.27)の開発が注目されていますが、バイオ燃料としても、キャッサバは優れた植物であると期待されているのです。また、世界人口が増加を続けている一方で、地球温暖化による降水地域、降水量の変化、乾燥地帯の拡大、土壌劣化などにより、耕地が作物の生育に適さない土地になってきています。キャッサバは、乾燥やせた土地など問題のある土地でも栽培が可能であることから、食糧問題解決の糸口として期待されているのです。



ちょっとブレイク



アフリカの国旗

次の国旗はアフリカの国の国旗の一部です。どこの国のものかわかりますか?また、これらの国旗を見て、どんなことに気づきますか?アフリカには他にもいろいろな国がありますし、世界の国はみんな国旗を持っています。国旗にはそれぞれの意味が込められています。調べてみるとおもしろいかもしれませんね。

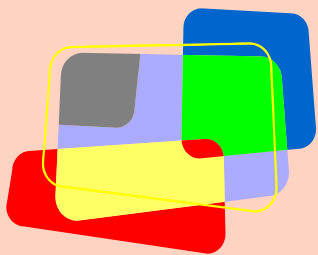


アフリカの国旗は、赤・黄・緑の組み合わせが多くなっています。3色のうち、どの色も使っていないのは、ソマリアとボツワナの2カ国だけです。これは、一番最初に独立したエチオピアの国旗にならったためと言われています。一般的に、赤は自由を求めて闘った人々の血、黄色は天然資源、緑は大地や資源を表していると言われています。

- ① 南アフリカ
- ② アルジェリア
- ③ エチオピア
- ④ ウガンダ
- ⑤ チュニジア
- ⑥ 中央アフリカ
- ⑦ エジプト
- ⑧ カメルーン
- ⑨ ガーナ
- ⑩ ナミビア
- ⑪ リビア
- ⑫ ガボン
- ⑬ カーボベルデ
- ⑭ ケニア
- ⑮ ブルキナファソ
- ⑯ ルワンダ
- ⑰ ザンビア
- ⑱ ジンバブエ
- ⑲ スーダン
- ⑳ モロッコ
- ㉑ セネガル
- ㉒ スワジランド
- ㉓ セーシェル
- ㉔ タンザニア
- ㉕ マリ

 第2章

へえ～！ガボンと日本



ガボンと日本のへえ～ホント？

① ガボンと日本、まったく無関係のようでも、実はいろいろ関係があるのです！

① ガボンを漢字で書くと、雅梵です。



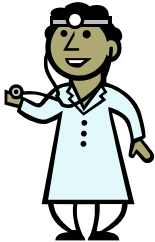
② 日本とガボンではガボンの方が面積が広いです。



③ 残念ながら、日本にガボン人は住んでいません。



④ シュバイツァー博士が建設したガボンのランバレネ病院では、日本人医師も活動しています。



⑤ 2005年の実績で日本は、フランス、アメリカ、カナダ、ドイツに次いで世界で5番目に多くガボンに経済協力をしています。



⑥ 下の切手は、在日ガボン大使館ができた時記念に発行された切手です。



⑦ ガボンでは毎年柔道の大会が開かれています。



⑧ 2002年東京で開催された「経済、貿易、文化フォーラム」を記念して日本とガボンの友好歌がつけられました。



⑨ ガボンで走っている自動車の80%が日本車です。



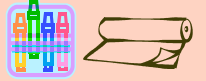


- 1 **×**
ウソ ガボンを漢字で表すと、「加蓬」です。
- 2 **×**
ウソ ガボンの面積は267,667km²、日本の面積は377,887km²。つまり、ガボンは日本の約3分の2の広さなのです。
- 3 **×**
ウソ 2005年現在日本にいるガボン人は23人、ガボンにいる日本人は43人です。
- 4 **ホント** ガボンの首都リーブルヴィルから約250キロの位置にあるランバレネ病院は、1952年にノーベル平和賞を受賞したフランス人医師シュバイツァーが建設したものです。日本人医師も活動しており、現在はその意志を継いだ人々によって運営されています。日本は草の根無償資金により、医療器材、衛生機材を援助しています。(P.24)
- 5 **×**
ウソ 2005年の実績では、日本はフランスに次いで世界2位のガボン主要援助国となっています。例えば日本は、ガボンの「トランスガボン」鉄道や漁業センターの建設を支援しています。
- 6 **×**
ウソ 1970年の日本国際万国博覧会開催を記念して発行された切手です。この「ドラムを叩く黒人と三味線を弾く日本婦人」の他に「ガボンと日本の女性、富士山に鳥居」も発行されました。
- 7 **ホント** 日本大使杯柔道大会を毎年開催しています。
- 8 **ホント** 在日ガボン大使館のウェブサイトで歌を聞くことができます。
- 9 **ホント** 2005年愛知万博の開催に向け、2003年ガボン共和国エル・ハジ・オマール・ボンゴ大統領から日本に送られた挨拶文によると、ガボンには、日本製品がたくさんあるようです。



あなたはまちの宣伝部長！みんなにまちをPR！

① あなたは、ガボンの、あるいは、愛西市のまちづくりプロジェクトチームです。今年、ガボンあるいは愛西市を世界に向けてPRしよう！という大きな役割を担っています！



- ① まず、5～6人のグループに分かれましょう！
半分のグループはガボンチーム、残りのグループは愛西市チーム（または日本チーム、市チームなど）となります。
- ② 次に、ガボン、または愛西市（または日本、市など）のアピールポイント（いいところ、おもしろいところ、ウリ、意外な一面など）を考えます。本やインターネットなど参考にしながら、できるだけたくさんのアピールポイントを探し、グループごとにまとめてみましょう。
- ③ アピールポイントがまとまったら、今度は発表する方法を考えましょう。
できるだけ他の人の関心をひくような、魅力的な宣伝を考えてみてください。
(例：模造紙でカラフルなポスターを作る、パンフレットを作る、パワーポイントを使う、絵本にする、紙芝居にする、ロールプレイ(お芝居)にする、など)
- ④ いよいよプレゼンテーション(発表)です。
他のグループにガボン、愛西市(または日本、市など)の魅力を紹介してみましょう！
- ⑤ どうでしたか？
うまくPRできましたか？他のグループのプレゼンテーションはどうでしたか？
一番印象に残ったPRはどのチームのものだったでしょうか？
この活動を通して発見したことをグループで話し合ってみましょう。



P.19の解説です。



ガボンを知ると同時に自分が住んでいる地域のことも知ろう


例えばガボン大使館のウェブサイトにはこんな紹介が載っています。

ガボンの観光パノラマ


ガボンは赤道にまたがり、多くの河川が横切る密林におおわれ、レジャー観光に最適な自然に恵まれています。世界でも希な動植物、地理的な多様性があることに加え、それを保護する環境システムが整っていると同時に、治安が安定しており、各国からの観光客をお迎えできる環境にあります。

首都リーブルヴィルの町並みは洗練されています。大西洋岸ではさまざまなマリンスポーツが楽しめます。曲がりくねったオグーエ川でのカヌー旅行、密林でのサファリ、ランバレネイにあるシュバイツァー博士ゆかりの病院での滞在など、ガボンには赤道アフリカのなかでも最も素晴らしい景観に囲まれているといえるでしょう。また、ウォンガ・ウォンゲ、イゲラ、ロペ・オカンダという3つの有名な公園・リゾート地があります。その自然環境のなかでは、ゴリラ、象、野牛、ワニ、猿、そのほか多くのエキゾチックな鳥や花などを見ることができます。



 ガボン大使館ウェブサイト



 落合亮仁 (写真3枚)





ちょっとブレイク



ガボンの歴史

紀元前7000年以上

先住民としてバントゥー族が暮らしていました。

15世紀末

ポルトガル人が渡来し、オゴウェ川河口付近に通商基地を設置しました。そして奴隷貿易やその他の交易が行われました。キリスト教の布教が進められたのもこの頃からです。ついで、イギリス、オランダ、フランスが沿岸地域に進出してきました。この地は、奴隷貿易と象牙の集散地としても栄えたのです。

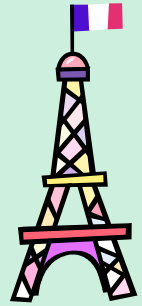


1870年～80年代

ピエール・ブラザは、中部アフリカのフランスによる植民地化に重要な役割を担った人物として知られているイタリア系フランス人の探検家です。19世紀に入って奴隷貿易が禁止されたのち、フランスの勢力が強くなっていきました。1870年～80年代にピエール・ブラザが、オゴウェ川流域を探検し、ガボンの多くの首長たちと保護条約を結んだ事により、今日のガボンのほぼ全域がフランスの支配下に組み込まれることとなったのです。

1884年～85年代

1884年～85年に欧米14カ国が参加して開かれたベルリン会議で、ガボンのみならずコンゴ川西岸にいたるまでの地域に対するフランスの支配権が認められ、1890年に、ガボンは正式にフランス領コンゴの一部となりました。1903年に分離されて別個の植民地となり、1910年にフランス領赤道アフリカの一部となったのです。この状態は、1959年まで続きました。



1913年

アルベルト・シュバイツァーは、ドイツ出身でフランスの神学者・哲学者・医者・音楽家。1913年、シュバイツァーが38歳の時、医療と伝道に生きることを志しガボンのランバレネに渡り、生涯を現地の人々への医療などに捧げました。「生命への畏敬」への哲学などでも知られ、世界平和にも貢献しました。



1960年

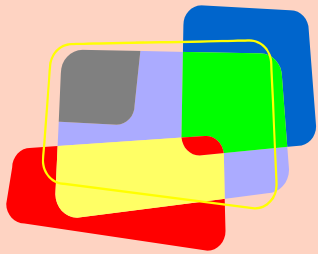
1958年11月にガボンは、フランス共同体内の自治共和国となり、1960年8月17日に独立し、1961年にガボン民主ブロックの指導者レオン・ムバが初代大統領に就任しました。石油やウランなどの豊富な鉱物資源が開発され、経済成長が活発になると共にムバ政権の基盤はしだいに強固になっていきました。1967年、ムバの死去後、副大統領のオマール・ボンゴ・オンディンバが後継者として大統領に就任し、現職を務めています。





第3章

一緒に考えよう！こんな課題



アフリカが抱える課題



地球のどんな国も課題を抱えています。もちろん日本も。
ガボンのあるアフリカの国々はどんな課題を抱えているのでしょうか？

- ① ガボンの出生時における平均余命は何年でしょう？
A. 46年 B. 56年 C. 66年
- ② ガボンの5歳未満児の死亡者数は出生1000人あたり何人でしょう？
A. 3人 B. 30人 C. 130人
- ③ では、ガボンで適切な衛生施設を利用する人の割合はどのくらいでしょう？
A. 36% B. 56% C. 76%
- ④ アフリカの特にサハラ砂漠以南の国々は5歳未満児の死亡者数がとても多いのですが、その原因は何だと思いませんか？ 思いつくものをできるだけたくさん、グループで出し合ってみましょう。
- ⑤ 突然ですが、みんなはシュバイツァー博士のことを知っていますか？ 知っていることをグループで出し合ってみましょう。
- ⑥ アフリカの状況やシュバイツァー博士の活動などを知って、どんな感想を持ちましたか？ みんなで話し合ってみましょう。



① B. 56年

日本は82年、世界の平均は68年、サハラ砂漠以南のアフリカの国の平均は50年です。

② A. 3人

日本は4人です。ガボンの死亡者数は日本よりも少ないですが、サハラ砂漠以南のアフリカの国々の多くでは、5歳未満児の死亡率がとて高くなっています。

③ A. 36%

日本は100%、世界は59%、サハラ砂漠以南のアフリカの国は37%です。また、ガボンの都市部は37%、農村部は30%です。

サハラ以南のアフリカの状況とTICAD

世界における貧困の問題、それに関連する教育、保健、そしてさらにそこから広がる平和、環境の課題は、地球上に住むすべての人間が解決に向けて取り組んでいかなければいけない『地球的課題(グローバル・イシュー)』ですが、とりわけサハラ以南のアフリカの国々の状況は深刻です。成人の総識字率は58%(世界78%)、初等教育純就学/出席率は58%(世界86%)、成人のHIV/エイズ有病率6.1%(世界1.0%)、1人あたりのGNI851米ドル(世界7406米ドル)、1日1ドル未満で暮らす人の比率43%(世界19%)など、途上国の中でも特に改善、解決が必要とされています。

特にサハラ以南のアフリカの子どもたちは慢性的な栄養障害を持っています。貧困による食糧不足で栄養不良にあるだけでなく、衛生状態の悪さや医療不足による下痢その他の感染症によって栄養状態を悪化させ、それがまた感染症のリスクを高めるといふ悪循環を起こしています。また、母乳栄養や離乳食などについての親の知識不足も子どもの健康状態に影響しています。こうしたことから5歳未満児の死亡率も高くなっているのです。(④)

そうした状況を踏まえ、2008年横浜市でTICAD(Tokyo International Conference on African Development アフリカ開発会議)が開催されます。TICADは日本主導で、アフリカ開発をテーマに行う国際会議で、アフリカ諸国と国際社会が一緒になってアフリカの抱える課題について考えます。そうしたプロセスの中で、アフリカ諸国自身が自らの力で課題を発見し解決していく力を身につけていくとともに、アフリカ諸国の取り組みを国際社会が支援していくパートナーシップを組もうとしているのです。今回開催される4回目の会議では、「経済社会基盤(インフラ)の整備」「貿易・投資の強化」「農業・農村開発」の3つの重点項目を挙げて「緑と成長の大陸」実現を目指すとともに、2000年ニューヨークで開催された国連ミレニアムサミットで採択された8つのミレニアム開発目標(MDGs)を2015年までに達成できるような支援を行い、また、アフリカの気候変動に対処するための取り組みを支援します。

【ミレニアム開発目標】

極度の貧困と飢餓の撲滅 初等教育の完全普及の達成 ジェンダーの平等と女性の地位向上 幼児死亡率の削減 妊産婦の健康改善 HIV/AIDS、マラリア、その他の疾病の蔓延防止 環境の持続可能性確保 開発のためのグローバル・パートナーシップの推進



ユニセフ世界子供白書2008 / 外務省ウェブサイト

シュバイツァー博士とガボン

第一次世界大戦が勃発する前年の1913年、敬虔なキリスト教徒であったアルベルト・シュバイツァー(1875-1965年 ドイツ出身)は、医療と伝道によって、アフリカの貧しい人々を支援しようとガボンのランバレネ(ガボン西部に位置する小さな町)に行きました。当時のランバレネは、マラリア、象皮病、フィラリアなどを代表とする熱帯風土病が猛威をふるい、医療器具、医薬品が不足していました。そうした状況の中、シュバイツァー博士は現地の人々への医療活動を続け、その活動に対し1953年ノーベル平和賞を受賞しています。

シュバイツァー博士がランバレネに建てたランバレネ病院は現在も存続し、ガボンを代表する病院となっています。また、当時の診療所の建物もそのまま残され、記念館となっています。

ゴリラを救おう！プロジェクト

❓ ゴリラが絶滅の危機に立っています。みんなでゴリラを助けましょう!!

ゴリラの生息地域は、アフリカの赤道雨林地帯の海拔500m～1600m位の森林に限られています。ガボンをはじめ、カメルーン、中央アフリカ共和国、赤道ギニア、ナイジェリアにはニシローランドゴリラが、コンゴ民主共和国東部、ウガンダ、ルワンダには、ヒガシローランドゴリラと、マウンテンゴリラが生息していますが、今ゴリラが絶滅危惧種に指定されます。その原因は森林破壊や野生動物の密猟など。

① 5～6人のグループに分かれ、下のそれぞれの主張を読んでみましょう。



ハンターの主張

牛や豚が豊富な国と違って、野生動物がぼくたちの大切な食糧なんだ。昔からずっとそうやって生きてきたのに、今さらとるなって言われたって、ぼくたちにも家族がいる。食べていかなきゃいけないんだよ。食糧が豊富にある先進国の人間にはわからないさ。



木材会社の主張

人口が増えれば、木はますます必要になってきます。ここには、家や家具に使いやすい木材がたくさんあるのに、それをとるなって言うのはちょっとひどくないですか？日本は、紙文化が発達していると聞きますし、割り箸だって使ってるんでしょう？紙や木が大切ってことはわかっていただけますよね。



森林保護団体の主張

いま、世界中で、森林がすごい早さでなくなっているんです。その原因は、家を建てたり紙を作るためにたくさんの木を伐り、畑や牧場を作るために森を燃やしているから。木は伐り過ぎたりしなければ、また生えてくるし、森全体の自然が壊れることもありません。でも今は、木が育つスピードよりも早く、森が減り続けています。森が減れば動物も絶滅してしまうし、木がなくなれば二酸化炭素が多くなって、人間だって困ることになるんですよ。



消費者の主張

森林伐採って自分には関係ないことだと思ってたけれど、関係ないわけじゃないのね。でもね、わかってはいるけど、快適な生活を変えるのはちょっと...。家具だって古くなったら新しくしたいし、紙も必要でしょ？わたし一人が頑張ったって、変わらないし...。



ゴリラの主張

人間のせいで、何でオレたちが苦労しなくちゃいけないんだ???

② さあ、どうすればゴリラを救うことができるでしょうか？グループで関わっている人たちがそれぞれどうすればいいのか考え、ゴリラを救うためのプロジェクトをつくってみましょう。

③ みんなでプロジェクトを発表しあいましょう。

④ みんなの主張を聞いたり、プロジェクトをつくってみてどんな感想を持ちましたか？話し合ってみましょう。



絶滅危惧種

現在、科学的に明らかにされている生物種は約175万種、未知のものも含めると3,000万種に及ぶと言われてい
ます。(この数字は正確にはわかっていません)「近年、環境の悪化や生息域の減少、乱獲などにより種の絶滅が急
速な勢いで進んでおり、1年間に約4万種もの生き物が絶滅していると言われていいます。そして、絶滅の原因のほと
んどが人間活動によるものです。

絶滅の恐れのある種は、国際自然保護連合(IUCN International Union for Conservation of Nature and Natural
Resources)の「レッドデータブック」にまとめられています。2007年のリストには、最も絶滅の恐れが高いとされる3つ
のカテゴリーに1万6,306種が記載されています。哺乳類や鳥類、爬虫類、魚類などの動物種で7850種、植物種他
が8456種となっています。中でも、哺乳類と鳥類、両生類の絶滅危惧種が多くなっています。哺乳類は現存する種
の22%が絶滅危惧種であり、その中にはゴリラ、トラ、アフリカゾウ、クロサイ、オランウータン、ジュゴンなどがリスト
アップされています。両生類にいたっては31%が絶滅の危機にあり、2007年からはサンゴも掲載されました。

そうした現状を踏まえ、絶滅の恐れがある野生動植物の輸出入を規制する国際的な取り決めであるワシントン
条約や、生物多様性条約などの多国間条約が締結され、世界各国が協力して野生生物の保護に取り組んでいま
す。

森林伐採

世界の森林面積は約39億haで全陸地面積の約30%を占めています。1990年から2000年にかけて熱帯の天然
林は、毎年1,420万haずつ失われたとされています。これは、本州の3分の2の面積に相当します。世界的な森林減
少の原因としては、燃料用木材の過剰な採取、大規模な農地・プランテーションの開発、不適切な焼畑農業の増加、
森林火災、違法伐採などが挙げられ、その背景には、開発途上国における急速な人口増加、貧困などさまざまな社
会的・経済的問題があるのです。

森林を守らなければいけない理由としては、

さまざまな野生生物の多様な生息場所がなくなってしまう

森林は大気中の二酸化炭素を吸収し、大気の中に炭素を貯えて酸素を生み出すため、伐採すると地球温暖
化がより深刻になってしまう

森林は土壌の働きにより、雨水を貯え、きれいな水をゆっくりと安定的に流しだすことによって、山崩れや土石
流などの災害を防ぐ

森林は、木材や紙、木の実や山菜を生み出す

森林は、その地域の人々の文化を育む

森林の減少を防ぐための取り組みとして、

地域住民が主体的となって参加する持続可能な森林の管理を行う

森林の管理と農作物や家畜の育成を組み合わせた土地利用法(アグロフォレストリー)を行う

持続可能な森林経営をしてきた先住民などの知恵を活用する

伐採を制限するなどの管理を行う森林保護地域の設定(現在世界の森林の約12%が保護地域です)

私たちの身の回りにも家具やティッシュペーパーなど木材を原料とする製品がたくさんありますが、日本では原料と
なる木材の約8割を海外から輸入しているのです。わたしたちにできることは何でしょうか?

紙をリサイクルし、再生紙を使う

間伐材(健全な森林を育てるために、込みすぎた木を間引いて伐採したもの)を有効に利用する

木材製品を大切に使う

森に親しみ、大切に使う



『世界の森林とその保全』環境省

ガボンの取り組み

ガボンは植物が豊富で、国土の85%は森林に覆われています。(2,000万ヘクタール以上)。植物の種類は400以
上あるといわれています。ガボンには13の国立公園がありますが、その中の1つロアンゴ国立公園は、生物多様性が
豊かで、世界の国立公園の中でももっとも美しい場所の1つと言われています。そこでは、SCD(保護と発展のため
の協会)、WCS(野生生物保護機関)、ガボン森林省、その他NGOが協働してロアンゴ・プロジェクトと称するエコ・
ツーリズムを推進し、持続的な国立公園の保護を行っています。



ちょっとブレイク



ノーベル賞

ノーベル賞は、ダイナマイトの発明者として知られるアルフレッド・ノーベルの遺言に従って1901年に始まった世界的な賞で、「物理学」、「化学」、「生理・医学」、「文学」、「平和」、「経済学」の六部門からなります。物理学賞、化学賞、経済学賞の三部門についてはスウェーデン科学アカデミーが選考し、生理学・医学賞はカロリンスカ研究所(スウェーデン・ストックホルムの医科大学)が、平和賞はノルウェー国会が、文学賞はスウェーデン・アカデミーが選考します。受賞者へはメダルと賞金が与えられますが、その賞金は、ノーベル基金から出されます。経済学賞は1968年に設立され(1969年から授賞)ましたが、その賞金はスウェーデン中央銀行の基金から出されるため、厳密にはノーベル賞ではありません。ノーベルの命日である12月10日に、平和賞を除く5部門はストックホルム(スウェーデン)、平和賞はオスロ(ノルウェー)で授賞式が行われます。

日本人受賞者は12人います。

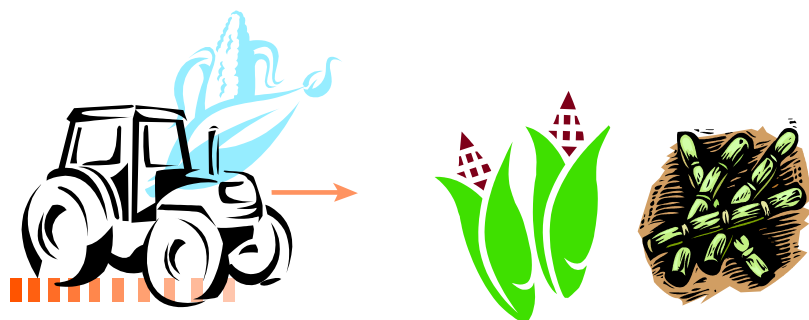
1949年	湯川秀樹	物理学賞
1965年	朝永振一郎	物理学賞
1968年	川端康成	文学賞
1973年	江崎玲於奈	物理学賞
1974年	佐藤栄作	平和賞
1981年	福井謙一	化学賞
1987年	利根川 進	生理・医学賞
1994年	大江健三郎	文学賞
2000年	白川英樹	化学賞
2001年	野依良治	化学賞
2002年	小柴昌俊	物理学賞
2002年	田中耕一	化学賞



バイオ燃料

生物や菌類などバイオの働きを使って作った燃料のことをバイオ燃料といいます。材料としては、トウモロコシ、サトウキビ、食用油、木材などが使われ、最近ではおからを使った開発も行われています。環境影響が小さく、有機性廃棄物からも製造できるため、循環型社会における石油系燃料の代替として注目され、各国で導入の動きが活発になっています。日本では、2007年4月27日よりバイオエタノールを含んだガソリンの試験販売が開始されています。またバイオ燃料が普及しているブラジルでは2007年5月、トヨタ自動車が生産可能なバイオ燃料の自動車を開発しました。

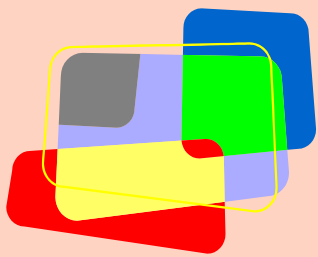
しかし一方で、耕地の拡大による森林伐採、作物の価格高騰、今のところ自動車にしか適応できないなどの課題も抱えています。





第4章

そして未来へ



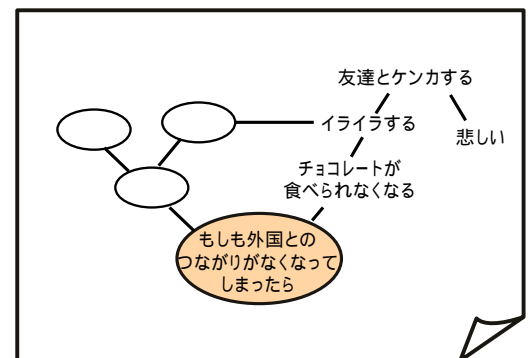
もしも外国とのつながりがなくなったら

① 「国際交流」は何のためにするのでしょうか?外国に行くこともないし、周りに外国人もいないから、「そんな関係な~い」って思ってる人はいませんか?



- ① きょうの朝起きてからここに来るまで、使った物、食べたり飲んだりした物、話した人、行った所...何でもいいので、自分が関わった物、人、ことなどをみんなですべて出し合って、黒板に書き出してみましょう。
- ② いくつ書き出せましたか? 書き出したものを見てどう思いましたか? 思ったこと何でもいいので、感想を全員で話し合ってみましょう。
- ③ ではその中で、外国とのつながりがなくなってしまうものはありませんか? 外国とのつながりがなくなってしまうものを、×で消してみてください。いくつ残りましたか?

- ④ それでは、① ~ ③ で考えたことも頭におきながら、もしも外国とのつながりがなくなったらわたしたちの生活はどうなってしまうのか、5~6人のグループに分かれて考えてみましょう。



それぞれのグループで模造紙を1枚ずつ用意して、真ん中に「もしも外国とのつながりがなくなったら」と書き込んでください。そこから、どうなってしまうか思いつくことを書き、さらにそれがどんな風につながっていくのか派生させて考えてみましょう。

例えば、「もしも外国とのつながりがなくなったら チョコレートが食べられなくなる イライラする 友達とケンカする 悲しい」もちろん、悪いことばかりではないかもしれません。「もしも外国とのつながりがなくなったら 英語を勉強しなくてもいい 伝統的な美しい日本語が受け継がれていく」他の人が書いた意見に付け加えたり、つなげたりしながら、自由な発想でどんどん広げていってください。

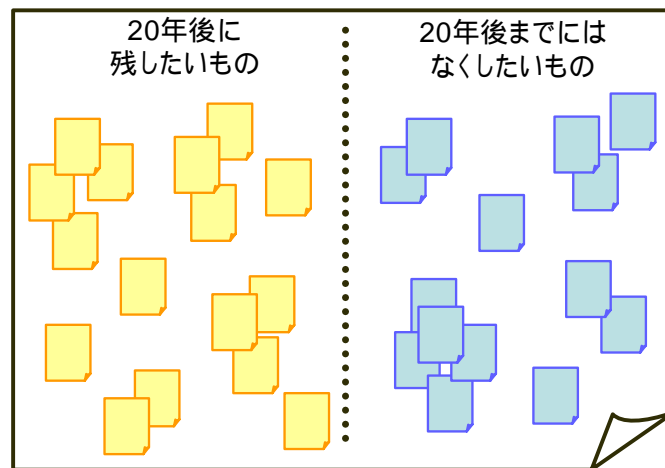
- ⑤ 各グループで考えたことを発表し、みんなで共有しましょう。
- ⑥ 他のグループの発表を聞いてどう思いましたか? 感想を話し合みましょう。
- ⑦ では最後に、今までやってきたことをふりかえりながら、「何のために国際交流をするのか?」1人ずつ書いてみましょう。



❓ 未来を創るために自分に何ができるか考えてみましょう。

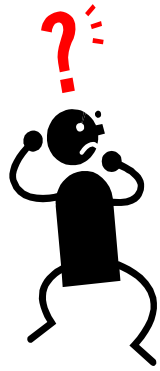
- 1 今地球にある物またはことで、「20年後に残したいもの」、「20年後までにはなくしたいもの」は何ですか？ それぞれ3つずつ考え、付箋紙1枚に1項目ずつ書き出しましょう。
その時、「残したいもの」と「なくしたいもの」は違う色の付箋紙に書くとわかりやすいでしょう。

- 2 4～6人のグループに分かれましょう。
各グループで模造紙を用意し、半分に区切ります。左側には「残したいもの」、右側には「なくしたいもの」を貼っていきます。みんなの意見を共有するために、1人ずつ読み上げながら貼ってください。また、他のメンバーが似たようなものを貼った時はその近くに貼ってください。



- 3 各グループから出た意見を発表し、全員で共有しましょう。
- 4 では、20年後そうした地球を実現するために、今わたしたちにできることは何でしょう？
自分がやろうと思うことを書き出してみましょう。
- 5 全員で共有しましょう。

もしも外国とのつながりがなくなったら？



派生図を描いてわかったこと
『もしも外国とのつながりがなくなったら...』

- ・良いことも悪いこともある
- ・日本は食糧と石油の部分で大きく影響を受ける
- ・「お楽しみ」が減る(映画、音楽、旅行、スポーツ)
- ・文化的な豊かさが減る
- ・世界の様子が見えなくなり不安になる
- ・資源が減る(輸入大国日本)
- ・世界の良さを知らないと日本の良さも見えなくなる

20年後に残したいもの・20年後にはなくしたいもの

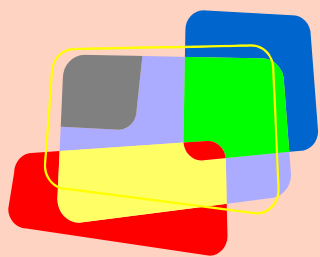
20年後に残したいもの

豊かな食 / 伝統文化 / 交流・共生 / 人とのつながり / 自然環境 / 便利さ / 希望 / やすらぎ / 問題解決 協力・協働 非暴力
安全で豊かな環境 / 暮らしやすい環境 / 娯楽 平和 / 笑顔

20年後にはなくしたいもの

環境破壊 / 貧富・格差 / いじめ / 差別 / 犯罪 病気 / 武器 / 戦争・紛争 / 核 / つめこみ主義
人間よりお金が大事にされる、そんな社会イヤだ
安全でない食

参 考 资 料




目で見えるガボン




1960年の独立とともに現在の三色旗となりました。緑は森林、黄色は太陽と赤道、藍は海を表わしています。この国は、ノーベル平和賞を受賞したシュバイツァー博士の長年にわたる医療活動の地であり、国旗のデザインも博士の著書『水と原生林のはざままで』からヒントを得たといわれています。

●人口●


 138万人(2005年)




 128.2百万人



●面積●

 267,667km²
(日本の約3分の2)

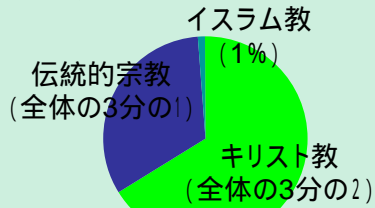
 377,887km²



●言語●

フランス語(公用語)

●宗教●



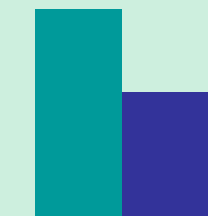
●気候帯●

熱帯雨林気候 / 熱帯サバナ気候
南部海岸地帯: ステップ気候

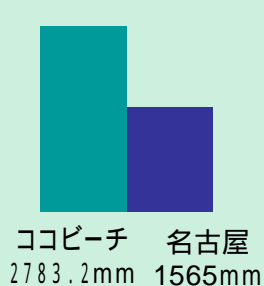
●通貨●

CFAフラン

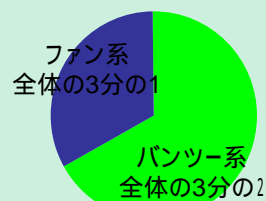
●平均気温●



●年間降水量●

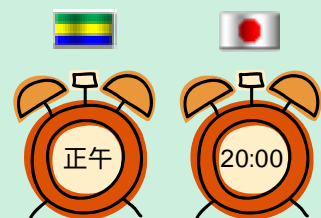


●民族●



●日本との時差●

- 8時間



国旗: 『世界の国旗』吹浦忠正監修(Gakken) 人口・面積・首都・民族・通貨: 外務省ウェブサイト「各国・地域情勢」 日本の人口: 世界子供白書2008(ユニセフ) 日本の面積: 総務省統計局「日本の統計」 気候帯: 外務省ウェブサイト「探検しよう!みんなの地球」 平均気温・年間降水量: 外務省ウェブサイト「探検しよう!みんなの地球」 名古屋の平均気温・年間降水量: 気象庁観測部観測課観測統計室「日本気候表」(S46~H12年の平均) 言語・日本との時差: 世界の国一覧表(財団法人世界の動き社)

● 主要産業 ●

鉱業(原油・マンガン)

農林業(木材・カカオ)



● 日本との貿易主要品目 ●



石油・原油・マンガン鉱・木材



自動車 機械機器

● 一人あたりのGNI ●

5,000米ドル(2006年世銀)



38,410米ドル(2006年世銀)



● 在留邦人数 ●

43人(2005年10月現在)



● 在日ガボン人数 ●

23人(2005年12月現在)

● 出生時の平均余命 ●

56年

82年



● 都市人口の比率 ●



84%(2006年)

66%(2006年)

● 5歳未満児の死亡者数 ●
(出生1000人あたり)

3人(2006年)

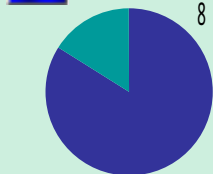


4人(2006年)



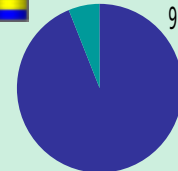
● 成人の総識字率 ●
(2000~2005年)

84%



● 初等教育純就学/出席率 ●
(2000~2006年)

99%

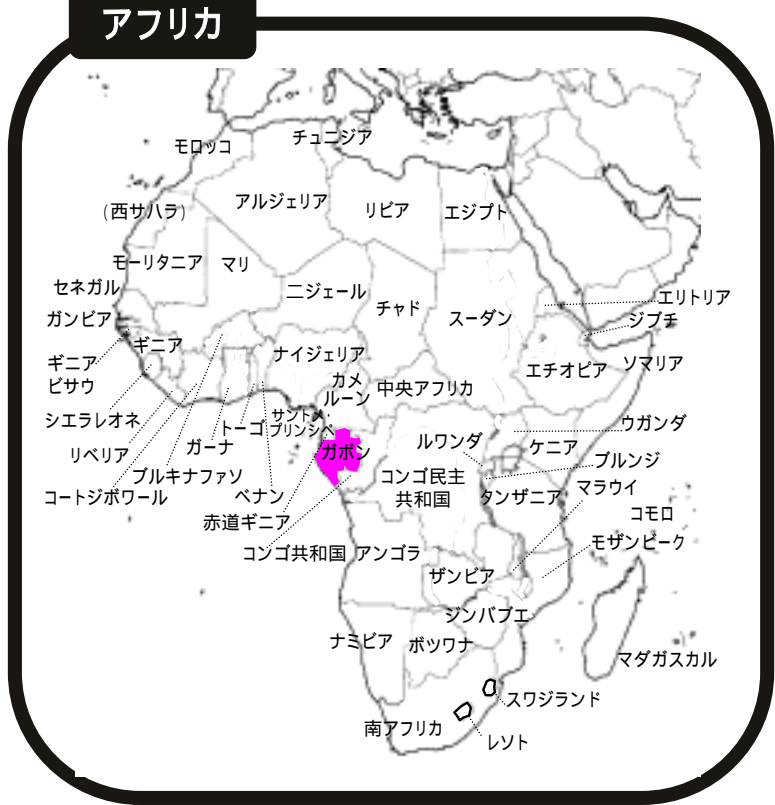
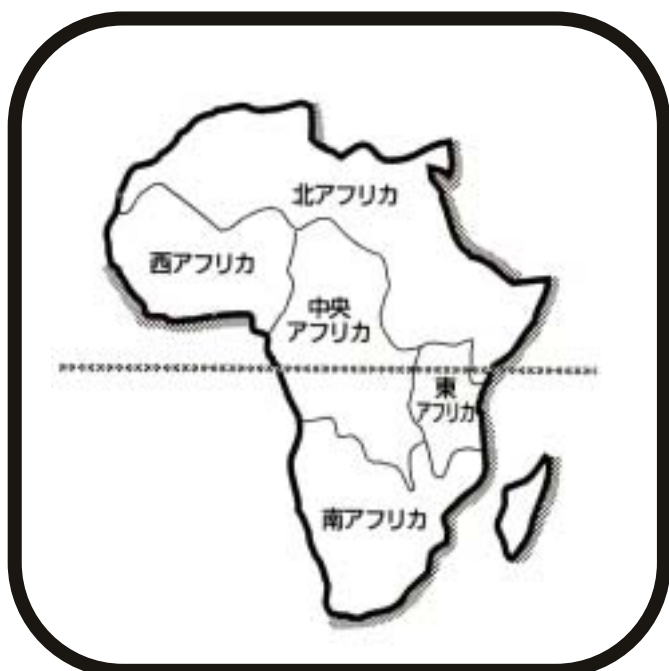


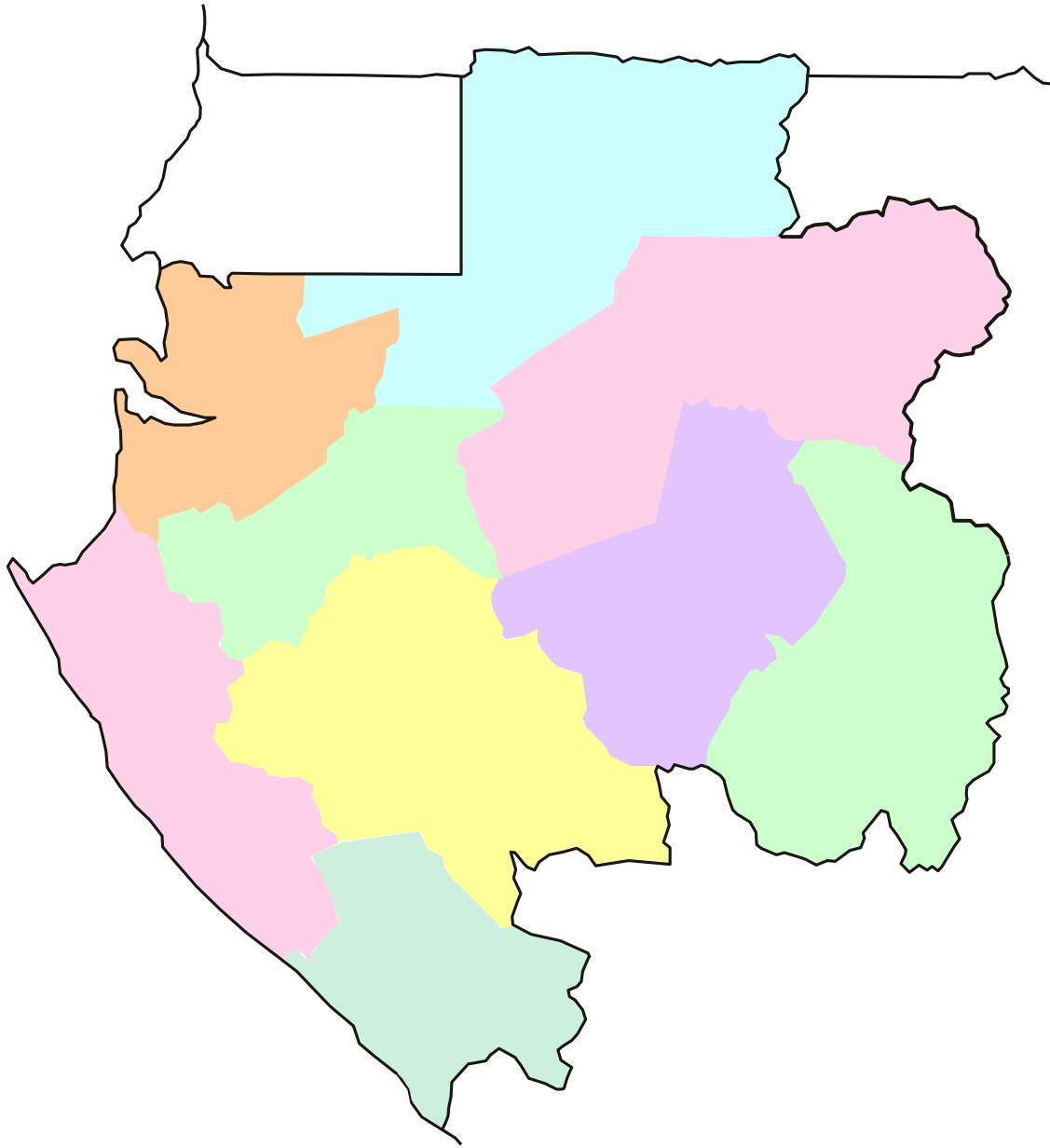
主要産業・日本との貿易主要品目・在留邦人数・在日ガボン人数:外務省ウェブサイト「各国・地域情勢」 一人あたりのGNI・出生時の平均余命・都市人口の比率・5歳未満児の死亡者数・成人の総識字率・初等教育純就学/出席率:世界子供白書2008(ユニセフ)

ガボン地図



アフリカ





アフリカ





参考文献・データ等の出典

在日ガボン大使館

<http://www.embassyofpanamainjapan.org/ja-index.html>

外務省「各国地域情勢」

<http://www.mofa.go.jp/mofaj/>

外務省「探検しよう! みんなの地球」

<http://www.mofa.go.jp/mofaj/gaiko/oda/sanka/kyouiku/kaihatsu/chikyu/index.html>

外務省「諸外国の学校事情」

http://www.mofa.go.jp/mofaj/toko/world_school/index.html

総務省統計局「日本の統計」

<http://www.stat.go.jp/data/nihon/index.htm>

財団法人日本ユニセフ協会

<http://www.unicef.or.jp/library/index.html>

環境省

<http://www.mext.go.jp/>

UNDPパンフレット「人間開発ってなに?」2007年2月改訂版より

http://www.undp.or.jp/publications/pdf/whats_hd200702.pdf

ノーベル賞

<http://www.nobelpris.org/japanese/index.html>

『世界地理 アフリカ』 福井英一郎編 (朝倉書店)

『世界の民族と生活 アフリカ』 米山俊直・野口武徳・山下諭一訳編 (ぎょうせい)

『アフリカのことがマンガで3時間でわかる本』 編著:大迫秀樹 (明日香出版社)

『アフリカを知る事典』 (平凡社)

ポプラディア情報館「世界の料理」 編者:サカイ優佳子・田中恵美編者(ポプラ社)

図書大百科 世界の地理17「西・中央・東アフリカ」 監修:田辺 裕 (朝倉書店)

ビジュアルシリーズ 世界再発見6「中部・南部アフリカ」 (同朋舎)

『アフリカの人口と開発』 早瀬 保子著 (日本貿易振興会アジア経済研究所)

伝記 世界を変えた人々 「シュバイツァー」 ジェームズ・ベントリー著 (偕成社)

ご協力いただいた方【敬称略】

青木澄夫(中部大学国際関係学部国際関係学科教授)

落合亮仁(JICA青年海外協力隊OB)



執筆

財団法人 愛知県国際交流協会

特定非営利活動法人 NIED・国際理解教育センター

教材作成チームメンバー





津島市・愛西市・北名古屋市・弥富市・扶桑町・大治町



世界の国を知る  世界の国から学ぶ

わたしたちの地球と未来

 ガボン共和国 

2008年3月

発行 愛知県

**企画
編集** 財団法人 愛知県国際交流協会
〒460-0001

名古屋市中区三の丸二丁目6番1号
あいち国際プラザ

TEL:052-961-8746 FAX:052-961-8045

E-mail: koryu@aia.pref.aichi.jp

URL: <http://www2.aia.pref.aichi.jp>

印刷 株式会社 丸和印刷



